

【 86 】

氏名	川 崎 康 一 郎		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1604 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年12月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学 位 論 文 題 目	骨・軟骨染色法を用いたラット耳小骨奇形の実験的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 村上宅郎	教授 松尾信彦	教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

伝音系奇形患者に対し適切な手術施行による治療成績の向上のためには、より正確な聴器の胎生学的、奇形学的知識が必要である。

耳小骨奇形の病態を明らかにする目的で、実験的に Wistar 系ラット母獣の妊娠10日目に水性ビタミンAを体重kgあたり20万単位腹腔内に過剰投与し、21日目に開腹し、胎仔を骨・軟骨重染色による骨格標本として、中耳を主とする聴器病態を実体顕微鏡下に観察した。

その結果、鼓骨、メッケル氏軟骨およびツチ骨では、大多数において正常であった。一方、ライヘルト氏軟骨由来の茎状突起、キヌタ骨およびアブミ骨では、大多数において異常（奇形あるいは欠如）をみとめた。また奇形病態の検討から、ツチ骨がメッケル氏軟骨に関連した第1鰓弓起源、アブミ骨の大部分がライヘルト氏軟骨に関連した第2鰓弓起源、また、キヌタ骨については、その大きい部分が第2鰓弓起源である可能性が考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は妊娠ラットにビタミンAを投与してその胎児の耳小骨奇形を誘発したものであるが、従来十分確立されていなかった耳小骨奇形の発生過程について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。